

第 53 回日本放射線技術学会秋季学術大会 参加レポート

(会期：2025 年 10 月 17 日～19 日／会場：札幌コンベンションセンター)

札幌医科大学附属病院 大橋 芳也

2025 年 10 月 17 日から 19 日にかけて、札幌コンベンションセンターで開催された第 53 回日本放射線技術学会秋季学術大会に参加しました。今回のテーマは「知空青～井の中の蛙大海を知らず、されど空の青さを知る～」であり、自分の専門領域を深く掘り下げることでこそ、新しい発見や広い視野が得られるというメッセージが込められていました。地元・札幌での開催ということもあり、全国から多くの放射線技師や研究者が集まり、活気あふれる学会となりました。

学会全体を通じて、北海道支部実行委員会による多彩な企画セッションや実践的なハンズオンセミナーが開催されました。いずれの企画も現場の技術向上と専門領域の発展を目的とした内容であり、若手からベテランまでがそれぞれの立場で学び、技術を磨く良い機会となっていました。展示ブースでは開発担当者と直接意見交換ができ、技術がどのように臨床現場へ還元されていくかを実感することができました。AI 画像解析、低線量撮影、造影剤投与方法の最適化など、臨床課題の解決に直結するテーマが多く発表されており、特に造影領域では造影剤量の削減や個別化プロトコルの工夫など、自身の研究分野と重なる内容が多く、今後の研究に活かせる示唆を得ることができました。

また、キヤノンメディカルシステムズ主催のランチオンセミナーで座長を務める機会もいただきました。本セミナーでは、同社のワークステーション「Abierto Vision」による臓器自動抽出技術や、「Vitrea」を用いた脳パーフェュージョン解析の新たな応用について紹介がありました。AI 技術やベイズ推定法による解析法を活用し、効率的で精度の高い解析を可能にする内容で、業務効率化と診断精度向上の両立を目指すものでした。座長として進行するなかで、こうした最新技術が日常業務や働き方改革にどのように寄与していくのかを改めて考える良い機会となりました。

本大会では、私は「炭酸ガス送気が腸間膜静脈の造影ピーク到達時間に及ぼす影響」について発表を行いました。CT colonography angiography (CTC-A) における炭酸ガス送気の生理学的影響を検討した研究で、炭酸ガスを送気した群と非使用群を比較し、造影ピークまでの到達時間や CT 値の推移を解析しました。その結果、炭酸ガスを用いることで静脈系の造影ピークが有意に早まることが確認され、撮影タイミングの最適化に有用である可能性を示すことができました。発表後には質問をいただき、研究の臨床応用や今後の展開を考える上で大変貴重な時間となりました。また、学会期間中は、他施設の技師の方々と意見交換を行い、それぞれの現場で抱える課題や工夫を共有すること

ができました。同じ分野に携わる仲間と直接話すことで、新しい視点や刺激を得ることができ、自分の研究活動に対するモチベーションも一層高まりました。

今回の学会は、発表者として、座長として、そして一参加者として、多くの学びと気づきを得られる貴重な機会となりました。テーマである「知空青」の言葉の通り、限られた分野の中にも深く広い世界が広がっており、探究を続けることの大切さを実感しました。これからも日々の臨床業務を大切にしながら、研究や教育の分野にも積極的に取り組み、放射線技術の発展と普及に貢献していきたいと思えます。



学会会場入り口



一般演題会場



機器展示会場